

第 12 回（平成 28 年度）
教育システム改善のためのアンケート調査報告書

平成 28 年 9 月

有明工業高等専門学校
学校運営検討委員会

目次

1. まえがき	1
2. アンケート結果およびその分析	4
2.1 5年生卒業時アンケート	4
2.2 専攻科修了時アンケート	17
2.3 新入生保護者アンケート	19
2.4 4年次編入生アンケート	23
3. あとがき	25

付録 アンケート内容と集計結果

- 付録1 5年生卒業時アンケート（平成28年2月実施）
- 付録2 専攻科修了時アンケート（平成28年1月実施）
- 付録3 新入生保護者アンケート（平成28年3月実施）
- 付録4 4年次編入生アンケート（平成28年5月実施）

1. まえがき

本校では、教育理念に基づいて設定された学習・教育到達目標を達成できるように教育プログラムを設計・作成し、日々の教育活動を展開しています。この教育プログラムに沿って教育を実践している本校の教育システム（教育体制）は、常時、点検・評価を行い、その結果を検討・分析し、継続的に改善を施し、向上させて行く必要があります。

学校運営検討委員会（以下、本委員会）は、本校の教育システムの点検、分析そして改善・向上の一環として、毎年、7種類のアンケート（一部隔年）を実施しています。学内では、卒業・修了直前の本科5年生・専攻科2年生、4年次編入生の3種類、学外では、OB・OG（本校卒業生）、企業（本校卒業生の就職先企業）、新入生および2年生の保護者*の4種類です（詳細は、表1を参照）。そして、これらのアンケートの結果を集計、分析し、改善点を「教育システム改善のためのアンケート調査報告書」（以下、調査報告書）として作成・公開し、教育システム改善・向上の一端を担ってきました。

今回の調査報告書の対象は、平成27年度の卒業・修了直前の本科5年生・専攻科2年生、平成28年度4年次編入生そして平成28年度新入生の保護者となります。

本調査報告書は、各アンケートをそれぞれ集計し、主に前年度の結果と比較し分析を行いました。

* 2年生の保護者に対するアンケートは平成18年度から平成22年度まで実施。

表1 アンケート実施・分析状況一覧

分析回	調査年度	実施時期	アンケート対象	報告年月	備考
第1回	平成14年度	H15年1月	H14年度専攻科修了生	H16（2004）年 3月	JABEE 作業部会
		H15年2月	H14年度本科卒業生		
	平成15年度	H15年7月	OB・OG		
		H15年11月	主な就職先企業		
第2回	平成15年度	H16年1月	H15年度専攻科修了生	H17（2005）年 6月	JABEE 作業部会
		H16年2月	H15年度本科卒業生		
	平成16年度	H16年6・9月	OB・OG		
第3回	平成16年度	H17年2月	H16年度専攻科修了生	H18（2006）年 6月	学校運営 検討委員会
		H17年2月	H16年度本科卒業生		
	平成17年度	H17年12月	OB・OG		
		H17年12月	主な就職先企業		
第4回	平成17年度	H18年1月	H17年度専攻科修了生	H19（2007）年 7月	学校運営 検討委員会
		H18年2月	H17年度本科卒業生		
	平成18年度	H18年4月	H18年度新入生保護者		
		H18年7月	H18年度2年次保護者		

分析回	調査年度	実施時期	アンケート対象	報告年月	備考
第5回	平成18年度	H19年1月	H18年度専攻科修了生	H20年(2008) 6月	学校運営 検討委員会
		H19年2月	H18年度本科卒業生		
	平成19年度	H19年4月	H19年度新入生保護者		
		H19年4月	H19年度4年次編入生		
		H19年8月	H19年度2年次保護者		
		H19年12月	OB・OG		
		H19年12月	主な就職先企業		
		H20年2月	H19年度専攻科修了生		
		H20年2月	H19年度本科卒業生		
		H20年3月	H20年度新入生保護者		
	平成20年度	H20年4月	H20年度4年次編入生	H20年9月	(追加版)
		H20年9月	H20年度2年次保護者		
第6回	平成20年度	H21年2月	H20年度専攻科修了生	H21(2009)年 9月	学校運営 検討委員会
		H21年2月	H20年度本科卒業生		
		H21年3月	H21年度新入生保護者		
	平成21年度	H21年4月	H21年度4年次編入生		
		H21年8月	OB・OG		
		H21年8月	主な就職先企業		
第7回	平成21年度	H22年2月	H21年度専攻科修了生	H23(2011)年 7月	学校運営 検討委員会
		H22年2月	H21年度本科卒業生		
		H22年3月	H22年度新入生保護者		
	平成22年度	H22年4月	H22年度4年次編入生		
		H22年9月	H22年度2年次保護者		
		H23年2月	H22年度専攻科修了生		
		H23年2月	H22年度本科卒業生		
		H23年3月	H23年度新入生保護者		
		平成23年度	H23年4月		
	第8回	平成23年度	H23年9月		
H23年9月			主な就職先企業		
H24年2月			H23年度専攻科修了生		
H24年2月			H23年度本科卒業生		
H24年3月			H24年度新入生保護者		
平成24年度		H24年5月	H24年度4年次編入生		

分析回	調査年度	実施時期	アンケート対象	報告年月	備考
第9回	平成24年度	H25年1月	H24年度専攻科修了生	H25(2013)年 7月	学校運営 検討委員会
		H25年2月	H24年度本科卒業生		
		H25年3月	H25年度新入生保護者		
	平成25年度	H25年4月	H25年度4年次編入生		
第10回	平成25年度	H25年9月	OB・OG	H26(2014)年 10月	学校運営 検討委員会
		H25年9月	主な就職先企業		
		H26年1月	H25年度専攻科修了生		
		H26年2月	H25年度本科卒業生		
		H26年2月	H25年度全学生		
		H26年3月	H26年度新入生保護者		
	平成26年度	H26年5月	H26年度4年次編入生		
		H26年7月	H26年度全教職員		
第11回	平成26年度	H27年1月	H26年度専攻科修了生	H28(2016)年 3月	学校運営 検討委員会
		H27年2月	H26年度本科卒業生		
		H27年3月	H27年度新入生保護者		
	平成27年度	H27年5月	H27年度4年次編入生		
		H27年9月	OB・OG		
		H27年9月	主な就職先企業		
第12回	平成27年度	H28年1月	H27年度専攻科修了生	H28(2016)年 9月	学校運営 検討委員会
		H28年2月	H27年度本科卒業生		
		H28年3月	H28年度新入生保護者		
	平成28年度	H28年5月	H28年度4年次編入生		

2. アンケート結果およびその分析

2.1 5年生卒業時アンケート

現在までに実施した5年生卒業時アンケートの実施状況は表2-1-1のとおりである。平成27年4月の5年在籍者数、192名（M:34, E:42, I:41, C:37, A:38）の内、留年者1名を減じ、平成27年度の卒業生数は191名（M:34, E:42, I:41, C:37, A:37）である。

5年生在籍者の192名を対象にWeb入力によるアンケートを行った。アンケート回答者数は172名（M:34, E:41, I:42, C:31, A:34）であり、回答率は172/191=90%（H26年度94%）であった。

表2-1-1 5年生卒業時アンケートの実施状況

	実施時期	対象者数（名）	回答者数（名）	回答率（%）
平成14年度	平成15年2月	177	161	91
平成15年度	平成16年2月	165	160	97
平成16年度	平成17年2月	190	180	95
平成17年度	平成18年2月	186	178	96
平成18年度	平成19年2月	192	178	93
平成19年度	平成20年2月	167	163	98
平成20年度	平成21年2月	171	168	98
平成21年度	平成22年2月	185	171	92
平成22年度	平成23年2月	174	170	98
平成23年度	平成24年2月	193	188	97
平成24年度	平成25年2月	180	177	98
平成25年度	平成26年2月	180	180	100
平成26年度	平成27年2月	198	186	94
平成27年度	平成28年2月	192	172	90

【A：回答者自身に関する質問】

平成27年度の5年生の学生数は4月時点では192名が在籍しており、内、留年者1名を除く、191名が卒業している。入学当時（H23年度、M42, E40, I40, C42, A40, 教務係調査による各科人数）は204名、4年次編入学生（H26年度、M2, E1, I2, C1, A2）8名、3年次編入留学生（H25年度、C1）1名が入学しており、これらの合計221名であった。また、1年次の在籍者数（前年度休学者、留年者を含む）は（M45, E40, I42, C43, A42）212名であった。

『卒業後の進路』は全体では71%（130名）の学生が「就職」であり、平成26年度の69%（129名）よりも2ポイント、平成25年度の65%（117名）よりも6ポイントそれぞれ増加している。進学率は26%〔平成26年度27%、平成25年度32%〕と前年度とほぼ同じである。進学率のここ数年の推移を見てみると、平成22年度の42%をピークにして、平成23年度～平成27年度まで、順に29%、25%、32%、27%、26%となっており、ここ数年は30%弱前後となっており、ほぼ定着している。5年生全体に対する「大学」への進学は11%（20名）であり、平成26年度13%（23名）、平成24年度15%（26名）と平成25年度15%（27名）よりもやや低下している。「専攻科」への進学は15%（28名）であり、平成26年度の15%（28名）と同じであり、平成25年度17%（29名）に比して2ポイント減少している。また、1.0%（2名）の学生が「進路未定」と回答しており、平成26年度3.4%（2名）、平成25年度の4.0%（7名）よりも減少している。ただし、物質工学科の学生2名が進路無記入となっている。

平成27年度の進学の中で、大学への進学率は42%（H26年度が45%、H25年度が48%）、専攻科のそれが58%（H26年度が55%、H25年度が52%）であり、ここ数年少しずつ、専攻科進学率が高くなっている。

進学の中で、改めて、専攻科への進学を見てみると、平成24年度のみ専攻科定員20名に対して19名と初めて定員を下回ったが、平成14年度～平成27年度までは、順に、20名、28名、22名、24名、25名、

36名、32名、26名、31名、32名、19名（H24年度）、29名、32名、28名となっており、直近の3年間では定員の1.4倍～1.6倍の入学者が安定して確保されている。

平成27年度の進学者の内訳を見てみると、機械工学科は専攻科進学者数5名（H26年度は9名）に対し、大学進学者数が1名（H26年度は4名）であり、倍率としては5倍と大きい。電気工学科、電子情報工学科、物質工学科および建築学科の専攻科進学者数は順に、6名、8名（アンケート上は9名であるが実際は8名）、5名、5名であり、大学進学者数は順に、4名、6名、5名、4名となっており、1.0倍～1.5倍専攻科進学生が多い。

また、平成23年度に定義された「卒業率」について、平成27年度は191名/221名=86.4%であり、平成26年度89.1%（H25年度80.7%、H24年度82.7%、H23年度89.8%）よりも約3ポイント減少し、平成25年度よりも約6ポイント増加しており、平成24年度よりも約4ポイント増となっている。これらの傾向についてより正確に把握するためには、より厳密な「卒業率」（同年度入学者の卒業生数/同年度卒業の入学、編入学生数）を定めた方が、同年度入学者に対する正しい分析ができると推測されるが、1年次～5年次までを毎年データ追跡等を行うのには課題も多い。

【B：教育全般の総括に関する設問】

『一般教育』に対して「満足している」と回答したものは全体で38%であり、平成26年度の31%に比べて7ポイント（H25年度の23%に比べて15ポイント）増加している。学科別では、建築学科が47%と高く、平成26年度の30%に比べて17ポイントも上昇しており、平成25年度の11%と比較すると36ポイントも向上している。次いで電気工学科が37%と高く、平成26年度の32%（H25年度も32%）よりも5ポイントアップしている。電子情報工学科は31%であり、平成26年度と全く同じ（H25年度も31%）である。物質工学科は32%であり、平成26年度の23%から9ポイント増加しており、平成25年度の32%に戻った形である。一方、機械工学科は24%と低迷しており、平成26年度の36%から12ポイント減少、平成25年度の32%に比べても8ポイント低下している。

また、「おおむね満足している」を含めると全体で90%（H26年度88%、H25年度82%、H24年度86%）となっており、過去4年間で最高値となっている。

学科別では、建築学科が97%と最も高く、次いで、機械工学科91%、電気工学科90%、電子情報工学科86%そして物質工学科84%となっており、5学科とも高いポイントとなっている。建築学科は平成26年度の87%から10ポイントも増加（H25年度81%、H24年度91%）している。

機械工学科は平成26年度の87%から4ポイント増（H25年度89%、H24年度72%）であり、逆に、電気工学科は平成26年度の95%に比して5ポイント減（H25年度67%、H24年度88%）となっている。電子情報工学科は平成26年度の86%と同じ（H25年度94%、H24年度88%）であり、物質工学科は平成26年度の87%から3ポイントダウン（H25年度81%、H24年度91%）である。

今年度は建築学科が特出して高いポイントであるが、過去4年間を通じて全学科とも80%台～90%台を推移しており、かなりの満足度と言える。

『専門教育』に関しては、「満足している」と回答したものは全体で43%となっており、平成26年度の39%（H25年度31%）に比べて4ポイント上昇（H24年度に比べて12ポイント増）している。

学科別で「満足している」を見てみると、電気工学科が63%と特出して高く、次いで機械工学科と電子情報工学科が41%（H25年度は機械工学科57%と電子情報工学科40%）、物質工学科が32%（H25年度37%）そして建築学科が29%（平成25年度24%）の順となっている。機械工学科が前年度よりも16ポイント激減しているのが気になるところである。物質工学科も前年度より5ポイント減少しているが、平成25年度の19%、平成24年度が14%であったので、それに比べればかなりポイントが増加していると言える。また、建築学科は依然として、他学科よりは低いが前年度よりも5ポイント上昇している。来年度以降も上昇を期待したい。

「満足している」と「おおむね満足している」を含めた『満足度』は全体では91%となっており、平成26年度の89%よりも2ポイントだけの増加（H25年度83%、H24年度90%）であるが、過去4年間かなり高い数値を維持している。

学科別では、電気工学科が100%であり、平成26年度の93%に比して7ポイントの増（H25年度81%、H24年度98%）であり、過去4年間通じて最も高い。次いで機械工学科が97%（H26年度92%、H25年度

87%, H24 年度 94%), 建築学科が 94% (H26 年度 84%, H25 年度 81%, H24 年度 98%), 電子情報工学科 91% (H26 年度 90%, H25 年度 88%, H24 年度 94%), 物質工学科 71% (H26 年度 85%, H25 年度 81%, H24 年度 66%) となっている。前年度だけで比較すると物質工学科以外は 1~10 ポイント満足度が増加している。平成 26 年度まで 3 年連続で増加していた物質工学科のみが前年度より 14 ポイント低下している。

過去 4 年間で分析してみると、物質工学科を除く 4 学科は『満足度』が毎年高い数値を維持している。ただし、建築学科は機械工学科、電気工学科、電子情報工学科に比べて、「満足している」の回答率は低く、「おおむね満足している」が高いために『満足度』は上記 3 学科とあまり遜色なくなっている。

物質工学科は平成 24 年度の 66%『満足度』から年々上昇 (H25 年度 81%, H26 年度 85%) を続けていたが、今年度 71%になっており、これらの増減差の原因調査と改善については何らかの対策を講じる必要があると考えられる。

『教育設備』に関しては、「満足している」は全学科平均で 32%であり、平成 26 年度の 38%に比して 6 ポイント減少 (H25 年度 26%, H24 年度 33%)。「おおむね満足している」まで含めた『満足度』は 85%となっており、平成 26 年度 84%よりもわずかに 1 ポイント上回って (H25 年度 74%, H24 年度 82%) いる。過去 4 年間で総じて、学生の『満足度』は高いと言える。

学科別では、相変わらず『満足度』は電気工学科の 98%が圧倒的に高く (H26 年度 93%, H25 年度 67%, H24 年度 95%), 次いで、電子情報工学科 88% (H26 年度 88%, H25 年度 94%, H24 年度 83%), 同じく建築学科 88% (H26 年度 73%, H25 年度 72%, H24 年度 75%), 機械工学科 79% (H26 年度 85%, H25 年度 74%, H24 年度 69%) そして物質工学科の 65% (H26 年度 81%, H25 年度 65%, H24 年度 81%) となっている。

『学生生活』では「満足している」と回答した学生は全学では 54%であり、平成 26 年度の 52%と比べて 2 ポイント増であり、「おおむね満足している」までを含めると全学で 89%であり、平成 26 年度の 85% (H25 年度 82%, H24 年度 86%) よりも 4 ポイント上昇している。過去 4 年間を見ても 80%を超えた高ポイントを維持している。

学科別で見ると、「満足している」と回答した学生は機械工学科、電気工学科および電子情報工学科が 57%~61%の範囲であり、物質工学科と建築学科がそれぞれ 45%と 47%とやや低い。平成 25 年度に引き続き機械工学科と電子情報工学科は高いポイントであるが、物質工学科が 10 ポイント程度低下している。逆に電気工学科が前年度比で 10 ポイント程度上昇している。「おおむね満足している」までを含めると、5 学科とも 83%~98%の範囲となり、多少の差はあるものの全体的には高いポイントと言える。また、「不満である」と回答した学生が、全学で 7 名 (H26 年度 12 名, H25 年度 17 名, H24 年度 3 名) となっており、平成 26 年度より 5 名減少、過去 3 年間の中でも最も少ないが、平成 24 年度の 3 名に比べると多い。

『自分自身に実力がついたと思うか』の設問では「身に付いたと思う」と回答したものは、全学で 32% (H26 年度 32%, H25 年度 27%, H24 年度 31%) であり、前年度と同じ%, 過去 4 年間でも 30%前後となっている。

学科別では、機械工学科 41%が最も高く (H26 年度 44%, H25 年度 32%), 次いで、電気工学科 39% (H26 年度 44%, H25 年度 27%), 物質工学科が同じく 39% (H26 年度 19%), 電子情報工学科 26% (H26 年度 27%, H25 年度 31%), 建築学科 18% (H26 年度 21%, H25 年度 31%, H24 年度 50%) となっている。前年度のみで比較すると、物質工学科を除く 4 学科とも 1~3 ポイント減少している。一方、物質工学科は前年度比で 20 ポイントも増加している。また、過去 4 年間では、建築学科は平成 24 年度の 50%をピークに毎年数値が低下しており、原因究明と対策が必要と推察される。

「身に付いたと思う」と「おおむね身に付いたと思う」までの回答を含めると、全学で 85%であり、平成 26 年度の 74%よりも 11 ポイントアップ (H25 年度 69%, H24 年度 82%) しており、過去 4 年間で見ても最高値を示している。

学科別では、電気工学科が 95% (H26 年度 71%, H25 年度 64%, H24 年度 83%) と最も高く、次いで、機械工学科 91% (H26 年度 85%, H25 年度 68%, H24 年度 66%), 建築学科 82% (H26 年度 70%, H25 年度 72%, H24 年度 95%), 物質工学科 77% (H26 年度 68%, H25 年度 60%, H24 年度 75%), 電子情報工学科 76% (H26 年度 76%, H25 年度 82%, H24 年度 88%) となっている。前年度のみで比較すると電子情報工学科を除く 4 学科ともに 6~24 ポイントの範囲で増加しており、特に、電気工学科の 24 ポイン

ト増が顕著である。電子情報工学科は前年度と同じ76%となっており、比較的高い数値を維持してはいるが、過去4年間で見ると最大12ポイント減少しているのが懸念される。

また、機械工学科は過去4年間で毎年ポイントが増加しており、今年度と平成24年度を比較すると25ポイントも上昇しており、良好な傾向と言える。

【C：科目教育に関する設問】

○ 一般科目

表2-1-2 一般科目の『必要性』

		M		E		I		C		A		Z	
		今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回
一般科目	国語	91	83	90	85	95	84	93	81	91	88	92	86
	社会	76	73	73	88	84	81	86	74	91	82	82	80
	英語	100	93	95	95	92	100	100	100	97	94	97	96
	化学・物理	79	68	75	76	69	65	100	100	79	85	79	77
	体育	94	93	95	90	95	95	96	90	97	94	95	93
	美術・音楽	58	48	55	59	49	60	64	48	62	73	57	57
	数学（～2）	91	95	98	95	97	100	100	94	94	91	96	95
	物理（～2）	94	93	95	95	95	86	100	90	91	91	95	91
全学科共通科目	情報処理基礎	65	58	95	93	95	93	100	84	82	88	87	83
	工学基礎I, III	94	85	88	90	90	79	82	81	85	88	88	85
	数学（3～）	100	93	100	98	97	95	100	97	91	88	98	94
	物理（3～）	91	95	98	93	92	81	97	87	85	85	92	88
	卒業研究	97	90	100	88	92	100	93	94	88	85	94	91
	授業外科目	76	88	87	92	87	85	100	100	94	90	88	91

『必要性』に関しては、概ね80%以上となっており、教育システムとして大きな問題はないものと思われる。但し、「美術・音楽」は他と比べてかなり低い数値となっている。

表2-1-3 一般科目の『教育実状』

		M		E		I		C		A		Z	
		今回	前回	今回	前回								
一般科目	国語	88	90	88	93	95	95	97	90	91	91	88	92
	社会	82	78	85	90	86	86	86	84	97	88	87	85
	英語	74	68	68	66	63	72	59	81	71	76	67	72
	化学・物理	79	75	80	83	68	81	93	94	85	88	80	84
	体育	94	90	93	88	85	88	86	94	94	91	90	90
	美術・音楽	71	70	70	80	69	70	71	68	85	70	73	72
	数学（～2）	97	88	98	98	95	93	96	90	100	91	97	92
	物理（～2）	100	88	95	95	90	95	100	84	97	94	96	91
全学科共通科目	情報処理基礎	79	60	93	88	90	88	93	77	85	82	88	79
	工学基礎I, III	85	83	95	95	87	93	86	90	88	94	89	91
	数学（3～）	94	90	100	95	100	98	100	94	94	85	98	93
	物理（3～）	88	93	100	95	100	93	100	90	94	82	98	91
	卒業研究	79	83	98	90	82	98	93	87	79	79	86	88
	授業外科目												

『教育実状』に関しては、「英語」と「美術・音楽」を除くほとんどの科目で80%以上となっており、教育システムとして大きな問題はないものと思われる。「英語」は、他と比べても低い数値となっており、原因の分析と対応が必要である。

表2-1-4 一般科目の『達成度』

		M		E		I		C		A		Z	
		今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回
一般科目	国語	71	83	75	71	74	84	86	71	79	76	77	77
	社会	53	75	65	78	68	74	62	65	76	76	65	74
	英語	56	50	46	59	49	63	45	61	50	52	49	57
	化学・物理	59	65	75	71	51	63	86	77	74	55	64	66
	体育	91	80	83	80	69	84	86	90	76	91	81	85
	美術・音楽	59	60	50	54	59	63	64	55	65	70	59	60
	数学（～2）	91	90	98	95	97	98	96	81	85	82	94	90
	物理（～2）	82	88	95	93	87	86	89	74	71	79	85	85
全学科共通科目	情報処理基礎	47	55	90	83	92	93	86	71	74	76	78	76
	工学基礎I, III	82	80	88	80	79	84	86	74	71	76	81	79
	数学（3～）	88	88	93	93	97	95	93	90	76	79	90	89
	物理（3～）	79	78	90	90	79	81	93	71	70	67	82	78
	卒業研究	82	88	100	93	92	86	93	87	85	85	91	88
	授業外科目	65	82	77	81	82	80	96	86	82	87	80	83

『達成度』に関しては、80%以上の科目が6割弱で、文系科目の達成度が低い傾向にある。文系科目も『必要性』は高いことから、学生にどうやって「成功体験」を積み上げていくかが課題といえる。特に、「英語」は科目の特性から達成度を上げることは一朝一夕にはいかないが、『教育実状』の改善と合わせて、地道に積み上げていくことが求められている。

○ 機械工学科

平成27年度のアンケートにおいて、『必要性』の項目に関して、「必要」あるいは「おおむね必要」と回答した割合は、全て94%～100%の範囲（H26年度は総合系科目の75%を除き、88%～95%、H25年度は制御系科目の84%を除き、90%～92%）を占める過去3年間の中で最高ポイントが得られた。

『教育実状』の項目においては、「適性」あるいは「おおむね適性」と回答した割合も一部の系科目（制御系科目：88%、総合系科目：82%）を除いて91%～94%の範囲（H26年度は加工系科目：85%、総合系科目：78%を除いて、90%～98%、H25年度は80%～92%）となり、平成26年度の90%～98%に比してやや低下しているものの、それでもかなりの高いポイントとなった。

一方、『達成度』に関しても「身に付いた」あるいは「おおむね身に付いた」と回答した割合が、79%～91%（H26年度は80%～90%、H25年度は71%～82%、H24年度は78%～92%）の範囲となり、前年度および平成24年度とほぼ同じレベル、平成25年度よりも10ポイント高となっている。過去4年間、比較的高い『達成度』を安定して推移しているが、さらに向上するためには、教職員側の熱意・工夫・改善および学生側の学習に対する態度、姿勢、意欲の高揚等が重要であると思われる。

○工学基礎系

	H27 年度	H26 年度	H25 年度	H24 年度
必要性	94%	90%	90%	81%
教育実状	94%	93%	90%	67%
達成度	82%	80%	71%	78%

○構造系

	H27年 度	H26 年度	H25 年度	H24 年度
必要性	100%	93%	92%	88%
教育実状	91%	90%	84%	91%
達成度	91%	85%	82%	91%

○加工系

	H27 年度	H26 年度	H25 年度	H24 年度
必要性	97%	88%	92%	81%
教育実状	94%	85%	90%	97%
達成度	79%	80%	71%	84%

○エネルギー系

	H27年 度	H26 年度	H25 年度	H24 年度
必要性	100%	95%	90%	91%
教育実状	94%	98%	92%	97%
達成度	91%	85%	82%	92%

○制御系

	H27 年度	H26 年度	H25 年度	H24 年度
必要性	97%	95%	84%	94%
教育実状	88%	93%	80%	88%
達成度	88%	90%	76%	88%

○総合系

	H27 年度	H26 年度	H25 年度	H24 年度
必要性	94%	75%	90%	91%
教育実状	82%	78%	87%	91%
達成度	91%	85%	79%	88%

○機械工学科専門科目計

	H27 年度	H26 年度	H25 年度	H24 年度
必要性	97%	89%	90%	88%
教育実状	91%	89%	87%	91%
達成度	87%	84%	77%	85%

工学基礎系科目：工学基礎Ⅲ，工業力学，工業英語など

構造系科目：材料学，材料力学，機械振動学，機構と要素，機械要素設計，基礎塑性力学など

加工系科目：溶融加工，精密加工など

エネルギー系科目：熱力学，伝熱工学，水力学，流体工学，流体機械，熱機関工学など

制御系科目：コンピュータ工学，数値計算法，電気電子工学，計測制御，メカトロニクス基礎，メカトロニクス応用，システム制御工学など

総合系科目：機械基礎製図，創造設計演習，機械基礎実習，機械創造実習，機械工学実験，生産システム工学など

○ 電気工学科

各科目の『必要性』に関して、「必要と思う」と「おおむね必要と思う」を選んだ回答数の割合、『教育実状』に関して、「適正だったと思う」と「おおむね適正だったと思う」を選んだ回答数の割合、『達成度』に関して「身に付いたと思う」と「おおむね身に付いたと思う」を選んだ回答数の割合は、以下のとおりであった。

○ 電気電子基礎

	今回	前回
必要性	97%	95%
教育実状	100%	95%
達成度	95%	88%

○ 情報工学系

	今回	前回
必要性	100%	85%
教育実状	98%	83%
達成度	78%	71%

○ 電力工学系

	今回	前回
必要性	100%	98%
教育実状	100%	93%
達成度	95%	83%

○ 電子工学系

	今回	前回
必要性	98%	93%
教育実状	100%	95%
達成度	90%	90%

○ 電気電子共通

	今回	前回
必要性	100%	95%
教育実状	98%	93%
達成度	95%	93%

○ 電気工学科専門科目計

	今回	前回
必要性	99%	93%
教育実状	99%	92%
達成度	91%	85%

電気工学基礎：電気基礎，工学基礎II，電気磁気学，電気回路，電気電子計測など。

情報工学系：情報処理，計算機工学，計算機工学特論など。

電力工学系：電気機器，電気設計，電力輸送工学，電力発生工学，高電圧工学，パワーエレクトロニクス，電気材料，電気法規など。

電子工学系：電子デバイス，電子回路，電子物性，電子設計，論理回路，通信工学，電子工学特論など。

電気電子共通：電気電子工学演習，電気製図，制御工学，システム制御，機械工学概論，電気電子工学実験など。

上記の結果について，特徴的なことを以下に記す。

『必要性』、『教育実状』に関しては，90%以上となっており，教育システムとして大きな問題はないものと思われる。『達成度』については，前回の調査では，平成24，25年度の80%以上から71%へ大きく減少していたが，今回の調査では7ポイント上昇し，78%となっており，一定の成果が得られているものと思われる。しかしながら，他に比べると低い数値であることから，今後も継続して原因の分析と対応が必要と思われる。

○ 電子情報工学科

各科目の『必要性』に関して、「必要と思う」と「おおむね必要と思う」を選んだ回答数の割合、『教育実状』に関して、「適正だったと思う」と「おおむね適正だったと思う」を選んだ回答数の割合、『達成度』に関して「身に付いたと思う」と「おおむね身に付いたと思う」を選んだ回答数の割合は、以下のとおりであった。

○ 電子情報基礎

	今回	前回
必要性	97%	100%
教育実状	92%	98%
達成度	92%	100%

○ 電子工学系

	今回	前回
必要性	92%	98%
教育実状	92%	93%
達成度	92%	86%

○ 情報工学系

	今回	前回
必要性	97%	98%
教育実状	97%	100%
達成度	92%	95%

○ 総合領域

	今回	前回
必要性	92%	86%
教育実状	92%	86%
達成度	87%	79%

○ 情報工学系の演習

	今回	前回
必要性	92%	86%
教育実状	92%	86%
達成度	87%	79%

○ 電子工学系の演習

	今回	前回
必要性	92%	86%
教育実状	92%	86%
達成度	87%	79%

○ 電子情報工学科専門科目計

	今回	前回
必要性	95%	95%
教育実状	94%	92%
達成度	90%	91%

電子情報基礎：工学基礎II，電子工学基礎，プログラミング，論理回路など

電子工学系：電気回路，電子回路，電磁気学，半導体工学，電気電子計測など

情報工学系：アルゴリズム，情報理論，数値計算法，言語処理系，情報ネットワーク，ソフトウェア工学など

総合領域：計算機工学，通信工学，情報処理システム，制御工学など

情報工学系の演習：情報工学演習，電子情報工学演習など 電子工学系の実験：電子工学実験

電子情報工学科専門科目計

上記の結果について，特徴的なことを以下に記す。

『必要性』、『教育実状』については，全て90%を超えており良好である。『教育実状』に関して，昨年低下していた情報工学系の演習（一昨年に比べて14%減）は改善しており，電子工学系の実験も昨年を上回っている。『達成度』に関しては，総合領域と電子工学系の実験で90%を下回っているものの概ね良好である。全体的に例年通りの状況であるが、『達成度』に関して『必要性』との乖離を今後も継続的に分析することが望ましい。

○ 物質工学科

各科目の『必要性』に関して、「必要と思う」と「おおむね必要と思う」を選んだ回答数の割合、『教育実状』に関して、「適正だったと思う」と「おおむね適正だったと思う」を選んだ回答数の割合、『達成度』に関して「身に付いたと思う」と「おおむね身に付いたと思う」を選んだ回答数の割合は、以下のとおりであった。

○ 基礎的な化学

	今回	前回
必要性	100%	100%
教育実状	100%	97%
達成度	97%	90%

○ 基礎的な生物

	今回	前回
必要性	96%	94%
教育実状	93%	77%
達成度	86%	74%

○ 基礎的な工学基礎

	今回	前回
必要性	100%	84%
教育実状	100%	87%
達成度	86%	77%

○ 専門展開

	今回	前回
必要性	100%	94%
教育実状	97%	97%
達成度	97%	84%

○ 物質コース専門科目

	今回	前回
必要性	100%	91%
教育実状	100%	95%
達成度	96%	87%

○ 生物コース専門科目

	今回	前回
必要性	100%	100%
教育実状	86%	88%
達成度	86%	82%

○ 実験

	今回	前回
必要性	93%	100%
教育実状	97%	94%
達成度	100%	90%

○ 物質工学科専門科目系

	今回	前回
必要性	98%	94%
教育実状	96%	91%
達成度	93%	84%

基礎的な化学（共通科目）：工学基礎Ⅱ、分析化学、無機化学、有機化学、有機化学、物理化学、化学工学など

基礎的な生物（共通科目）：生物化学、生物工学基礎など

基礎的な工学基礎（共通科目）：情報処理、工業英語、電気工学基礎、機械工学基礎、品質管理など

専門展開科目（共通選択科目）：機器分析学、生物工学基礎、材料工学基礎、環境化学、食品工学、高分子化学など

物質コース専門科目：機能材料工学Ⅰ，Ⅱ，プロセス工学，反応工学，物質工学演習など

生物コース専門科目：生体触媒工学，生物工学，微生物工学，生体高分子工学，生物工学演習など

実験：共通実験，コース別実験など

基礎的な化学（共通科目）に関しては、すべての学生は必要性を感じており、『教育実状』における『適正度』もすべての学生が実状に満足していた。『達成度』に関しても 97%が身についたまたはおおむね身についたと感じており、良好である。

基礎的な生物に関しては、90%以上が必要性を感じ、『教育実状』、『達成度』は 93%、86%と良好であった。『教育実状』、『達成度』に関しては近年低い傾向があったが、今年度は改善が見られた。

基礎的な工学基礎及び専門展開科目に関しては、すべての学生が必要性を感じており、『教育実状』におけ

る『適正度』（「適正」＋「おおむね適正」）もすべての学生が実情に満足していた。『達成度』に関しても 86% が身についたまたはおおむね身についたと感じており，良好である。

コース専門科目に関しては，全ての学生が『必要度』（「必要」＋「おおむね必要」）を感じており，『適正度』，『達成度』に関しては物質コースと生物コースのコース間若干物質コースの方が高かったが，ともに 86% 以上と良好であった。生物コースは近年低い傾向（平均 70%程度）にあったが，昨年度より 80%を超えており，改善が見られた。

実験に関しては，ほとんど全ての学生が必要性を感じている。『適正度』も 97%と良好である。『達成度』に関してはすべての学生が身についたまたはおおむね身についたと感じている。

物質工学科専門科目計で見ると『必要度』 98%，『適正度』 96%，『達成度』 93%と非常に良好であった。

○ 建築学科

各科目の『必要性』に関して、「必要と思う」と「おおむね必要と思う」を選んだ回答数の割合、『教育実状』に関して、「適正だったと思う」と「おおむね適正だったと思う」を選んだ回答数の割合、『達成度』に関して「身に付いたと思う」と「おおむね身に付いたと思う」を選んだ回答数の割合は、以下のとおりであった。

○ 建築学基礎

	今回	前回
必要性	94%	94%
教育実状	97%	82%
達成度	91%	79%

○ 計画系 1

	今回	前回
必要性	85%	94%
教育実状	88%	82%
達成度	76%	85%

○ 計画系 2

	今回	前回
必要性	97%	94%
教育実状	94%	94%
達成度	88%	91%

○ 環境系

	今回	前回
必要性	97%	97%
教育実状	88%	85%
達成度	91%	79%

○ 構造系

	今回	前回
必要性	97%	97%
教育実状	97%	85%
達成度	88%	79%

○ 構造系 2

	今回	前回
必要性	97%	91%
教育実状	94%	94%
達成度	82%	73%

○ 生産系

	今回	前回
必要性	91%	91%
教育実状	91%	79%
達成度	76%	70%

○ 実験

	今回	前回
必要性	91%	91%
教育実状	97%	88%
達成度	85%	88%

○ 建築設計演習

	今回	前回
必要性	94%	91%
教育実状	94%	82%
達成度	82%	79%

○ 建築学科専門科目計

	今回	前回
必要性	94%	94%
教育実状	93%	86%
達成度	84%	80%

建築学基礎：造形，工学基礎Ⅱ，コンピュータ・リテラシ演習など

計画系 1：建築デザイン，建築デザイン演習，日本建築史，西洋建築史，近代建築史など

計画系 2：住環境計画，都市計画，都市設計，建築計画，建築設計論など

環境系：建築環境工学，建築設備，建築設備演習など

構造系 1：構造力学，材料力学，構造力学特論，建築塑性解析，建築振動学など

構造系 2：鋼構造，鉄筋コンクリート構造，基礎構造，構造計画，構造設計演習など

生産系：建築構法，建築材料，建築法規，建築測量，建築生産など

実験：建築材料実験，建築実験実習など

建築設計演習：建築設計演習，卒業設計など

上述の結果について，特徴的なことを以下に記す。

『必要性』について，前回は，すべての項目で90%以上の値を得たが，今回は，計画系 1 科目で若干の落ち込みが見られた。『教育実状』では，生産系科目で持ち直しが見られた。『達成度』も，『教育実状』同様，生産系科目で持ち直しが見られた。一方，過去60%台が続いた環境系科目の『達成度』は，前回は10ポイント以上上回る結果が見られた。

【D：学習・教育到達目標に関する設問】

『教育の実状』では、「適正だった」と「おおむね適正だった」をあわせて肯定的回答として捉える。『達成度』については、「身に付いた」と「おおむね身に付いた」をあわせて肯定的回答として捉える。

今回と前回の結果を見比べる限り、本設問での結果は、全体的に改善されている。

学習・教育到達目標別に、回答結果を見る。今回も、前回同様、すべての項目で 80%以上となった。『教育の実状』および『達成度』ともに、昨年度の結果よりも良い。

細かく見ると、『教育実状』では、B-1、C-1、C-2以外、すべての項目で 90%以上（H26 年度は B-1～B-4 のみが 90%以上）であった。『達成度』は、B-1 と B-3 が 90%以上で、残りは 80%台（H26 年度はすべて 80%台）であった。

学科別の回答結果を見る。前回は、すべての項目で 70%台の評価を得ることができ、こうした結果に対し、「持ち直しが見られた」と評価した。今回はそれ以上の結果となり、概ね、『教育実状』は 90%以上、『達成度』は 80%以上の結果を得ることができた。しかし、A-1『達成度』機械工学科の結果が 70%を割り込んでいる点が気になる。

【E：その他に関する設問】

○ TOEIC 関係の英語教育

過去、連続して 60%台の結果で、前回は持ち直しが見られた項目である。今回も評価は向上し、「よい制度」と「それなりによい制度」を選ぶ割合は、前回比 13 ポイント（前回 71%）増の 84%となった。学科別に見ても、評価が低い学科はない。

○ 2 年次の混合学級制度

過去数年と同じく、この設問で、「よい制度」と「それなりによい制度」を選ぶ割合は非常に多く、これらの割合は、全学科で 90%（H26 年度 91%）であった。学科別に見ると、最も低い機械工学科でも 85%（H26 年度も機械工学科が最低値 88%）であり、最高が電気工学科の 93%（H26 年度も物質工学科が最高値 94%）であった。

○ 授業外単位制度

前回同様、高評価であった。この設問で、「よい制度」と「それなりによい制度」を選ぶ回答の割合は、前回の 96%とさほど変わらず、93%だった。学科別に見ても、すべての学科で高い評価が得られている（最も低い評価で 87%）。

○ 追認制度

この設問の結果も前回とさほど変わらない。ここで、「よい制度」と「それなりによい制度」を選ぶ回答は多く、これらの割合は全体の 92%を占め、学科別に見ても、すべての学科で高い評価が得られている（最も低い評価で 82%）。

○ 1～3 学年次の LHR

LHRをいかに意義深いものにするか。これまでの調査では、継続して課題として挙げられてきたことである。今回の結果は、これも、持ち直した前回とほぼ同じ値で、「有意義だった」および「おおむね有意義だった」を選ぶ回答の割合が 73%であった。学科別に見ると、前回は、機械工学科と物質工学科が 70%台を割り込んだが、今回は全学科で 70%台の結果が得られた。こうした評価が継続されることを期待したい。

○ 教育行事

前回は、「有意義だった」と「おおむね有意義だった」を選ぶ回答の割合が、建築学科で 73%にとどまった。今回は、電子情報工学科で 79%であったが、その他は 80%以上の評価であった。全学科では、87%であった。

○ 特別活動 2

前回は、「有意義だった」と「おおむね有意義だった」を選ぶ回答の割合が、建築学科で 80%を若干割り込んだが、今回はすべての学科で 80%以上の結果が得られ、全学科では 88%となった。

○ シラバスの利用

「利用しなかった」と答える学生は、前回に比べて 5 ポイント低くなり、全学科で 7%になった。こうした結果が、今回だけに終わらないことを期待したい。

○ レポート等のフィードバックはどうだったか

「適正」と「おおむね適正」との回答が、全学科で 84%となった。前回比 5 ポイント増である。このところ、わずかながらではあるが、右肩上がり値を上げてきている。こうした結果が、継続されることを期待したい。

○ 授業時間外の学習指導体制（補習・オフィスタイム制度）の制度の実状

『必要性』では、「必要」と「それなりに必要」を選ぶ回答は、前回の 76%を上回る 82%であった。

『実状』については、「機能していた」と「それなりに機能していた」を選ぶ回答の割合は、前回よりもやや低い 67%で、再び 60%台への落ち込みを見せた。次回は、持ち直しを期待したい。

○ 授業改善アンケートの反映

「よく反映されている」と「おおむね反映されている」を選ぶ回答の割合は、前回は 1 ポイント上回る 70%であった。

○ 学修単位制で科目の中で、授業 15 時間、自学自習 30 時間を適用した科目

「意識した」と「ある程度意識した」との回答は、前回と同じで、全学科で 63%であった。引き続き、学生に対して学修単位制の理解を促すことが必要である。

○ 学校の事務サービス

前回は、「よかった」と「おおむねよかった」の回答は、全学科で 74%であった。この値は、前回と比べて 8 ポイント減である。

○ 進路支援

「よかった」と「おおむねよかった」の回答が、すべての学科で 80%を超え、全学科で 91%だった。この値は、前回よりも 5 ポイント高い。

○ 課外活動

「よかった」と「おおむねよかった」の回答は、前回比 1 ポイント増で、全学科で 82%であった。

○ 学生相談室での対応

学生相談室の利用経験者は、全学科で 57%だった。この値は、前回とほぼ同じである。また、利用したことのない学生の回答を除き、利用経験者の回答に限ってみると、「よかった」と「おおむねよかった」の回答は、前回よりも 13 ポイント増え、90%であった。

○ 寮の運営・指導

「よかった」と「おおむねよかった」の回答は、NET（「入寮経験なし」を除く）で見ると、前回よりも 9 ポイント減り 65%だった。

【自由意見】

72 件であった前回よりもかなり少ない 20 件のコメントが届いた（M 科 2 件、E 科 5 件、I 科 7 件、C 科 2 件、A 科 4 件）。前回は、前々回に比べると 35 件減であった。内容別分類によれば、「寮」が 4 件、「学校生活」が 4 件、「授業」が 6 件、「設備」が 3 件、「その他」が 4 件であった。

関係部署等においては、内容を精査し必要に応じて検討・改善を頂ければ幸いである。

2.2 専攻科修了時アンケート

これまでに実施した専攻科生修了時アンケートの実施時期、回答者数等は表 2-2-1 に示す通りである。今回は、平成 27 年度専攻科修了予定者（アンケート実施時）に対して実施したアンケートの分析結果である。

表 2-2-1 専攻科修了時アンケート実施状況

	実施時期	対象者数(名)	回答者数(名)	回答率(%)
平成 14 (2002) 年度修了生	2003 年 1 月	23	23	100
平成 15 (2003) 年度修了生	2004 年 1 月	18	17	94
平成 16 (2004) 年度修了生	2005 年 2 月	19	19	100
平成 17 (2005) 年度修了生	2006 年 1 月	27	27	100
平成 18 (2006) 年度修了生	2007 年 2 月	24	24	100
平成 19 (2007) 年度修了生	2008 年 1 月	23	23	100
平成 20 (2008) 年度修了生	2009 年 2 月	35	33	100
平成 21 (2009) 年度修了生	2010 年 2 月	36	35	97
平成 22 (2010) 年度修了生	2011 年 2 月	30	25	83
平成 23 (2011) 年度修了生	2012 年 2 月	26	26	100
平成 24 (2012) 年度修了生	2013 年 1 月	30	30	100
平成 25 (2013) 年度修了生	2014 年 1 月	32	32	100
平成 26 (2014) 年度修了生	2015 年 1 月	19	18	95
平成 27 (2015) 年度修了生	2016 年 1 月	28	27	96

アンケート対象者は例年 20～30 名程度であり、各専攻や系での回答数は少数であることに留意していただきたい。また以降、「生産情報システム工学専攻機械系」については単に「機械系」と表記する。「電気系」および「電子情報系」についても同様に表記する。

【A：回答者自身に関する質問】

平成 27 年度修了予定者 28 名のうち、回答者 27 名の内訳は、機械系 5 名、電気系 6 名、電子情報系 6 名、応用物質工学専攻 6 名、建築学専攻 4 名であり、その進路は進学 11 名（H26 年度 41%）、就職 16 名（H26 年度 59%）である。進学率は平成 25 年度から平成 26 年度にかけて、38%から 61%へ大幅に増加していたが、平成 27 年度には 41%と再び 40%前後へと低下した。電気系の進学率は 100%であり、これまでの傾向と同様に高い進学率となっているが、機械系が 100%から 40%、電子情報系が 100%から 17%と大幅に低下したことが大きな要因であると思われる。

【B：教育全般の総括に関する設問】

一般教育および専門教育について、「満足している」または「おおむね満足している」の回答がいずれも 70%以上となっており、修了生の教育に関する満足度に問題はないと思われる。

また、教育・研究環境についても、「満足している」または「おおむね満足している」の回答が 81%と高い値を維持している。さらに、実力がついたかという設問に対しても、「満足している」または「おおむね満足している」の回答が 78%と前年度に引き続き、高い値となっている。

【C：科目教育に関する設問】

地域協働関連科目以外において、『必要性』、『教育実状』、『達成度』のいずれにおいてもおおむね 70%以上が肯定的な回答であり、良好な状況であることがわかる。

地域協働関連科目に関しては、『必要性』は 80%から 57%へと大幅に減少したが、『教育実状』、『達成度』とも 60%から 70%以上と大幅に増加した。例年、他の科目とは異なる傾向が見られるため、科目の意義や必要性、内容など全体的に検討する必要があるのではないかとと思われる。

【D：本校の学習・教育目標に関する設問】について

多面的考察力と高い倫理観に関して『教育実状』は90%以上が適正と感じており、と良好であった。『達成度』に関しても85%以上が身についたと考えている。これに対してコミュニケーション能力に関しては『教育実状』が適正と感じている学生は70%で、『達成度』に関しては約60%の学生が身についたとしているが低い傾向にあった。コミュニケーション能力は社会から求められる重要な能力であるため、教育実状の充実、学習指導方法、学生の自学自習などに関して改善が必要である。

工学の知識に関しては基礎知識、専門知識、実践力、学際的知識ともに『教育実状』は90%以上が適正と感じており、非常に良好である。『達成度』に関しても4項目ともすべて80%以上が身についたと感じており、良好であった。課題探求および解決に関しては『教育実状』は90%以上が適正と感じており、『達成度』に関しても80%以上が身についたと感じており、良好であった。このため工学の知識や課題探求・解決に関する内容に関しては現状を維持し、さらなるレベルアップのためのカリキュラムを検討してもらいたい。

【E：その他】

一般科目、専門基礎科目、工学基礎科目、複合的・学際的資質育成科目、深い専門性の育成科目に関してはどれも90%近くの学生が満足しており、良好であった。

学会発表や特別研究発表会に関してはほとんどの学生が満足していた。また、ポスターセッションに関しては80%の学生が「企画はよい」または「企画はよいが改善してほしい」とこの企画自体には意義を感じているようであったが、20%の学生が必要ないと考えている。学生が不満に感じる点としては自由意見にもあるが、「外部へのアピール不足」、「学外の参加者が少ないこと」など、外部公開となっているにもかかわらず参加者のほとんどが学内の関係者であることが挙げられる。しかし、満足度は実際にポスターセッションを経験した約80%の学生が満足しており、今後実施時期や方法、外部へのアピールなど改善することで学生にとって有意義な企画となると思われる。

TOEICに対する支援体制については、これまで満足度が低い傾向が見られていたが、本年度も50%以上の学生が不満を感じている結果であった。平成28年度専攻科入学生からTOEICは専攻科修了要件の項目からなくなったが、TOEICを含め英語は社会から求められる重要な能力であるため、支援体制について早急な改善が求められる。

シラバスの利用に関しては75%の学生は利用しているが25%の学生はあまり利用しなかったまたは利用しなかったと回答している。シラバスに関しては28年度よりループブックを利用したシラバスへと大きく内容が変更するため、今後学生が利用しやすいものになることを期待する。

時間外での教員の対応、進路支援、事務サービスなどの学生へのサービスに関して満足度は85%以上で良好であった。相談室に関しては利用した学生は30%程度であったが、利用したすべての学生が満足していた。今後も引き続き丁寧な対応を心がけたい。

TAに関しては85%の専攻科学生がTAを経験しており、体験した学生の90%は満足していた。TAの経験は学生自らのコミュニケーション能力の向上などにつながると思われるため、今後も専攻科学生自身の就学に影響しない程度で進めてもらいたい。

2.3 新入生保護者アンケート

現在までに実施した新入生保護者アンケートの実施時期および回答者数等は表2-3-1の通りである。今回の分析は、平成28年度における新入生保護者実施分を対象とし、前年度（H27年度）実施分と比較する形で行った。文章中の括弧（ ）内の数値は、特に断らない限り、前年度（H27年度）の数値を示す。

但し、前回はかなり回答率が低かったことを考えると、単純な比較はあまり有効とはいえないかもしれないので、一昨年度（H26年度）との比較も必要に応じて行っている。

また、今年度の新入生から「創造工学科」生となったことに関連し、従来の学科別での分析ができなく（不要に）なったことを付記しておく。

表2-3-1 新入生保護者アンケートの実施状況

	実施時期	対象者数（名）	回答者数（名）	回答率（％）
平成18（2006）年度	平成18年4月	215	202	93.9
平成19（2007）年度	平成19年4月	209	208	99.5
平成20（2008）年度	平成20年3月	210	210	100
平成21（2009）年度	平成21年3月	205	205	100
平成22（2010）年度	平成22年3月	215	207	96.2
平成23（2011）年度	平成23年3月	212	203	95.7
平成24（2012）年度	平成24年3月	209	137	65.5
平成25（2013）年度	平成25年3月	209	186	88.9
平成26（2014）年度	平成26年3月	205	194	94.6
平成27（2015）年度	平成27年3月	207	73	35.3
平成28（2016）年度	平成28年3月	208*	156	75.0

* 平成28年度の1年次在籍者数は223名だが、前年度からの留年者数15名を除いた208名を「新入生」とみなし、本アンケートの対象としている。

【回答数および回答率】

回答者は全体で156（73）名であり、新入生全体208（207）名の75.0%（35.3%）にあたる。前回の回答率が調査開始以来、最低となっていたが、今回は前回と比べ倍増している。

アンケート依頼文をわかりやすく丁寧に作成し、本校のホームページからもアクセスできるようにする等の工夫はしたものの、以前と比べると、まだまだ改善の余地は残っていると思われる。

今後も、回答率100%に向けた継続的な取組が必要である。

【（設問1）通学生・寮生の別】

通学生の割合が64.1%（58.9%）で寮生の割合が35.9%（38.4%）との回答を得た。全体的には、通学生と寮生の割合がおよそ6：4という傾向に大きな変化は見られない。なお、「間借り・下宿などからの通学生」は0名であった。

【（設問2）通学生の通学方法】

表2-3-2 通学生の通学方法（％）

	H28	H27	H26
徒歩	5.8	7.0	13.3
公共交通機関	46.1	83.7	56.3
自転車	39.6	14.0	25.8
自家用車での送迎	7.1	0	3.9
その他	1.3	0	0.8

この設問は、(設問1の)通学生の保護者のみへの設問である。また「すべて」の通学手段を問うため、複数回答が可能である。

「公共交通機関」46.1% (83.7%), 「自転車」39.6% (14.0%) が上位を占めたのは前回同様である。また、自転車の割合および自家用車で送迎の割合が大きく増加した点が今回の特徴である。但し、前々回と比べると、ほぼ同様の傾向が読み取れる。

【(設問3・4) 寮生活】

表2-3-3 寮生活について (%)

	H28	H27	H26
心配ない	1.8	14.3	4.2
おおむね心配ない	30.4	17.9	21.1
やや心配	53.6	42.9	57.7
心配がある	14.3	25.0	16.9

この設問は、(設問1の)寮生の保護者のみへの設問である。「やや心配」53.6% (42.9%)が増加し、「おおむね心配ない」30.4% (16.9%)も増加した。逆に、「心配がある」との回答は減少した。前々回と比べると、ほぼ同様の傾向である。

なお、この設問では「心配がある」と回答した保護者に「寮生活について最も心配なことは」何かを4つの選択肢(「学業」、「寮生活」、「人間関係」、「その他」)の中からさらに回答するようになっている。

表2-3-4 寮生活について最も心配なことは (%)

	H28	H27	H26
学業	16.3	5.3	7.0
寮生活	30.6	42.1	35.1
人間関係	53.1	47.3	56.1
その他	0	5.3	1.8

「人間関係」53.1% (47.3%), 「寮生活」30.6% (42.1%) が上位を占める傾向に変化は見られない。前々回と比べてもほぼ同様の傾向である。但し、「学業」との回答がかなり増えているのが今回の特徴である。

【(設問5) 有明高専を最初に知ったのは】

表2-3-5 有明高専を最初に知ったのは (%)

	H28	H27	H26
以前から知っていた	58.3	60.3	58.2
ホームページ	2.6	1.4	3.1
ポスター・パンフレット等	7.7	6.8	6.2
中学校の先生	3.2	5.5	1.5
塾からの情報	3.8	2.7	3.6
中学校での学校説明会	2.6	1.4	1.5
お子様から	6.4	12.3	7.2
知人(身内, 親戚等)	12.2	8.2	17.5
その他	3.2	1.4	1.0

「以前から知っていた」58.3% (60.3%) が最も多く、「知人(身内, 親戚等)」12.2% (8.2%) が続く。前々回と比べると、ほぼ同様の傾向である。

また、「ポスター・パンフレット等」および「中学校での学校説明会」が増加している点が今回の特徴であり、地道な入試・広報活動が効果を上げ始めたといえるかもしれない。次年度以降の注目点である。

【設問6）有明高専受験を決定した時期】

表2-3-6 有明高専受験を決定した時期（％）

	H28	H27	H26
締め切り直前	0	6.8	1.5
昨年12月頃	9.0	9.6	12.9
昨年10月頃	24.5	31.5	20.6
中学3年生の1学期頃	31.6	24.7	34.5
中学2年生の3学期頃	6.5	9.6	6.2
中学2年生の2学期頃	7.1	6.8	5.7
中学2年生の1学期頃	3.9	1.4	5.2
中学1年生の頃	12.9	2.7	7.7
それ以前	4.5	6.8	5.7

「中学3年生の1学期」31.6%（24.7%）の回答が最も多く、「昨年10月頃」24.5%（31.5%）と続く。前回と比べ、1位と2位が逆転した結果となったが、前々回と比べると、ほぼ同様の傾向である。また、「中学1年生の頃」の回答が12.9%とかなり増加している点が今回の特徴である。

【設問7）進路決定の際、有明高専の情報を何で得ましたか】

表2-3-7 進路決定の際、有明高専の情報を何で得ましたか（％）

	H28	H27	H26
ホームページ	27.3	26.4	25.8
ポスター・パンフレット等	13.9	11.5	11.7
オープンカレッジ	25.4	20.9	20.9
中学校の先生	4.8	6.6	6.6
塾からの情報	3.2	3.3	4.8
中学校での学校説明会	6.7	5.5	7.7
お子様から	8.3	10.4	5.7
知人（身内、親戚等）	0	13.2	14.5
その他	10.4	2.2	2.2

「ホームページ」27.3%（26.4%）が最も多く、「オープンカレッジ」25.4%（20.9%）と上位を争っている状況に変化は見られない。設問6（「有明高専受験を決定した時期」）で「中学1年生の頃」の割合が増加したことから、オープンカレッジの参加者との関連が容易に想像できる。

また、設問5でもみられたように「ポスター・パンフレット等」は、年々減少傾向であったが、わずかとはいえ増加傾向に転じたことは、広報活動における戦略の見直しを指摘していただけない、（学科再編があったとしても）関係部署の努力の賜物といえるだろう。

なお、設問5（「有明高専を最初に知ったのは」）との関連から、「知人」の回答がゼロというのは今までの調査結果と比較しても、その理由が不明である。同様に、「その他」の回答が大きく増加している点も、何を指しているのか気になる点である。次年度以降も同様の結果となるようであれば、その他の内容を別途調査する必要があるだろう。

【(設問8) 有明高専入学の決め手】

表2-3-8 有明高専入学の決め手 (%)

	H28	H27	H26
お子様本人の希望	32.4	34.2	33.2
就職率が高い	22.9	24.3	24.2
大学へ編入学できる	12.4	13.4	14.6
専攻科へ進学できる	7.1	6.4	7.8
学生教育がしっかりしている	9.0	6.9	6.1
経済性	4.3	2.0	4.5
寮がある	4.5	4.0	4.1
中学校・塾の先生の進路指導	2.6	2.5	1.8
立地・環境・設備が良い	2.6	4.5	2.1
その他	2.1	2.0	1.6

「お子様本人の希望」32.4% (34.2%) が最も多く、「就職率が高い」22.9% (24.3%)、「大学へ編入学できる」12.4% (13.4%) と続く。全体としての傾向に大きな変化は見られない。「学生教育がしっかりしている」との回答率が上昇している点は、大変ありがたい評価である。

【(設問9) 入学後心配なこと】

表2-3-9 入学後に心配なことがありますか (%)

	H28	H27	H26
特になし	9.9	13.3	13.1
学業	45.7	41.9	43.1
学校生活	22.6	24.8	22.6
通学	18.9	17.1	16.6
その他	2.9	2.9	4.6

「学業」45.7% (41.9%) が最も多く、「学校生活」22.6% (24.8%) と続く。ここでもほぼ例年同様の結果が得られている。今後、いかに「学業」への心配を減らすことができるかも注目すべき点と思われる。「通学」の回答も年々増加傾向にあるのも気になる点である。

【(設問10) アドミッションポリシーを意識しましたか】

表2-3-10 アドミッションポリシーを意識されましたか (%)

	H28	H27	H26
意識した	69.2	71.2	73.6
意識しなかった	30.8	28.8	26.4

全体的に「意識した」と「意識しなかった」の割合が7:3という傾向に大きな変化は見られない。アドミッションポリシーに対する意識を向上させるには「何か新しい工夫(しかけ)が必要である」とこれまでも指摘してきたが、まずは学内での関係部署での検討をお願いしたい。

【(設問11) 自由意見】

合計27件(8件)もの自由意見を寄せて頂いた。近年、自由意見の件数が減少傾向にあったことから大変嬉しいことである。内容としては「学生生活(寮生活を含む)」や「学習面」での不安の声や、これからの5年間に期待したいといったものが多かった。

中には、学校への質問も記載されており、そうした意見にどのようなタイミングで保護者に回答するか、今後検討の必要がある。

2.4 4年次編入生アンケート

現在までに実施した4年次編入生アンケートの実施時期および回答者数等は表2-4-1の通りである。今回は、平成28年度4年次編入生に対して実施したアンケートの分析である。

表2-4-1

	実施時期	対象者数(名)	回答者数(名)	回答率(%)
平成19年度	平成19年4月	11	11	100
平成20年度	平成20年4月	11	10	91
平成21年度	平成21年4月	7	7	100
平成22年度	平成22年4月	9	9	100
平成23年度	平成23年4月	12	12	100
平成24年度	平成24年5月	12	12	100
平成25年度	平成25年5月	13	13	100
平成26年度	平成26年5月	8	8	100
平成27年度	平成27年5月	11	11	100
平成28年度	平成28年5月	16	16	100

【所属学科】

機械4名、電気1名、情報8名、物質2名、建築1名の合計16名。

【通学生・寮生の区別、通学方法、寮生活について】

16名の内、通学生6名、寮生10名である。通学生の通学方法は「徒歩」4名が最も多く、次いで「自転車」が3名、「公共交通機関」および「バイク」がそれぞれ2名と続く（複数回答可のため、総数は一致しない）。本年度は自家用車送迎1名となっていることが例年と異なる。

寮生活については、寮生10名全員が「心配ない」「おおむね心配ない」と回答している。

【有明高専の認知と情報取得方法】

有明高専を「以前から知っていた」という回答が3名、「高校の先生から」および「知人から」が9名および3名となっている。「ホームページ」と回答した学生が1名で「ポスター・パンフレット」と回答した学生が無く、昨年の分析結果とほぼ同様であった（原因として編入生向けのポスター等を配布していないことが判明したため、アンケートの設問項目を見直すなどの検討が必要）。電子媒体に関しては、後に述べる進路決定の際には効果が見られるが、最初に認知してもらうためには伝聞が有効であることは例年と同様の傾向である。前年度「高校における学校説明会」と回答した学生が1名いたが本年度は例年通り0名となっていた。

進路決定の際の情報取得方法（複数回答可）に関しては「ホームページ」および「ポスター・パンフレット等」からが各13名、「知人」からが3名、「高校の先生」からが11名と多数を占めている。高校の先生からの進路指導もさることながら、ホームページでの情報取得も積極的になされている。昨年度「オープンカレッジ」と回答した学生が1名だったが本年度は3名と増加している。その他、「高校における学校説明会」「知人」「その他（先輩）」がそれぞれ3名、1名、1名となっている。

【受験決定時期と入学の決め手】

平成26年度は「2年2学期頃」平成27年度は「2年3学期頃」が一番多かったが、本年度は「昨年5月頃」が5名、「2年3学期頃」が4名、「締切直前」「2年2学期頃」「2年1学期頃」がそれぞれ2名、「2年3学期頃」が1名となっている。本年度は、高校2年の時ではなく、3年に入ってから進路を決定していることが特徴である。

入学の決め手（複数回答可）は「就職率が高い」が8名、「学生教育がしっかりしている」が8名、と一番多く、「大学に編入できる」「専攻科へ進学できる」がそれぞれ6名、2名となっており、就職・進学への意

識の高さがうかがえる。「学生教育がしっかりしている」との回答が昨年の3名から8名と増加しているため、継続的な増減調査が必要である。

その他、「JABEEに認定されている」が1名、「寮がある」が2名、「高校・塾の先生の進路指導」が2名、「立地・環境」が1名、「設備」が3名、「その他」が1名となっている。

【入学後の心配】（複数回答可）

「学業」が13名、「通学」が1名、「心配なし」が3名となっている。例年「学業」に対する心配が一番多いため本結果の担任等へのフィードバックも検討する必要がある。

【アドミッションポリシーに対する意識】

アドミッションポリシーを「意識した」が14名、「意識しなかった」が2名となっており、より一層のアドミッションポリシーの周知徹底が必要であると考えられる。

【高専卒業後の進路について】

「就職」が9名、「専攻科進学」が1名、「大学編入学」が3名、「考えていない」が3名となっている。考えていないが3名となっているが、概ね入学時に進路に関して考えている学生が多い。専攻科進学が少ないことが気になるが、高校の先生へのPRを含めて今後検討する必要がある。

【有明高専への要望、自由意見】

特に無し

例年とほぼ同様の傾向ではあるが、少なからず新しい環境に不安を抱えている学生がいる。氷山の一角の可能性もあるため学内へのフィードバックを強化することが重要である。

3. あとがき

本校の教育システムならびに教育プログラムを継続的に改善・向上するために、本委員会では平成14年度から毎年アンケートを実施し、集計、分析そして報告活動を展開しています。本調査報告書は12回目の発刊を迎えます。今回は平成28年1月から平成28年5月までのアンケート実施分を主として整理し、前回（第11回報告書）と対比して分析したものです。

今回のアンケート集計・分析の結果、継続的改善・向上という観点から評価すると、本校の教育システムならびに教育プログラムは、全般的に良好な状態を維持もしくは向上していると言えます。ただし、依然として改善あるいは経過観察を要する事項も見受けられます。

卒業時アンケートでは、準学士課程の【教育全般の総括に関する設問】において、『一般教育』では、全学的には、過去4年間の中で今回、[満足度]は最高値を示し、良好な結果が得られました。ただし、学科毎では[満足度]は上昇下降を年度ごとに交互に繰り返している状況です。『専門教育』では、全学的には、過去4年間の中で今回、[満足度]は最高値を示し、高評価が得られました。ただ、学科毎に見ると、高ポイントを維持している学科が複数あるのに対し、高低差が大きい学科もあります。また、『自分自身に実力がついたと思うか』の設問に対しても過去4年間で「身に付いたと思う」と回答した学生が多い学科は40ポイントを超えているのに対し、低い学科は20ポイント以下に留まっており、しかも4年間の間に年々低くなっているのも懸念されます。ただし、「身についたと思う」+「おおむね身についたと思う」までを含めると過去4年間の中で、今回は最高ポイントとなっており、良好な傾向と言えます。

専攻科修了時のアンケートでは、【教育全般の総括に関する設問】、【科目教育に関する設問】について、ここ数年、いずれの項目においても概ね70%以上の『満足度』が得られており、大きな問題はないと考えられます。しかし、地域協働関連科目に関しては、他の科目と異なる傾向が例年見られるため、これらの科目に関して、大幅な見直しが必要ではないかと思われます。学会発表や特別研究発表会（ポスターセッション）に関しては、学生からの『満足度』もかなり高く、今後も活発な研究発表の場面拡大が期待されます。また、専攻科修了要件の1項目であった「TOEIC400点相当を達成すること」が平成28年度入学生から除外されましたが、今後より一層の英語力向上のための支援体制強化が求められます。

教職員におかれましては、関係組織・部署において、以上のようなアンケート結果を謙虚に受け止めて頂き、結果に至った要因・背景をさらに分析するとともに、より一層の改善・向上を目指して地道にそして着実に成果が得られるような取り組みを継続して頂きたいと思えます。

「まえがき」でも述べましたように、本調査報告書が、関係組織・部署、各教職員の学校の教育システム・プログラムの継続的改善・向上に資することを切に願っております。そのためには、本校の教職員1人1人が、本調査報告書を先ず熟読して頂き、本校の教育システム・教育プログラムに対する学内外からの評価を適確に掌握して頂き、そして、各関係組織・部署等で共通認識に基づいた改善・向上の具現化が実現できますことを期待致します。

なお、本調査報告書のバックナンバーおよび分析データは本校ホームページの「教育システム改善のためのアンケート結果&分析」にアップロードされています。合わせてご参照願います。

最後に、各種アンケート調査にご協力・ご尽力ならびにご支援頂きました関係各位に深く感謝の意を表します。

学校運営検討委員会

委員長 南 明宏（機械工学科）
副委員長 谷口 光男（一般教育科）
高松 竜二（電気工学科）
石川 洋平（電子情報工学科）
出口 智昭（物質工学科）
加藤 浩司（建築学科）
事務担当 原賀 亮治（企画情報係）